

MF-TOKYO 2025

第8回 プレス・板金・フォーミング展

鍛圧機械に関する国際展示会「MF-TOKYO 2025 第8回プレス・板金・フォーミング展」が7月16日から19日まで東京ビッグサイトで開催され、4日間で3万人以上が来場しました。学生を対象としたバスツアーも開催され、1,500人を超える学生が参加しました。日刊工業新聞社では初めての試みとして、学生に協賛出展者取材し、企業の魅力やイベントの感想をレポートにしてみよう「学生記者」企画を行いました。ここでは、優秀なレポートを一部、紹介します。（vol.1は9月22日に掲載）

学生記者が 体感した 展示会

vol.2



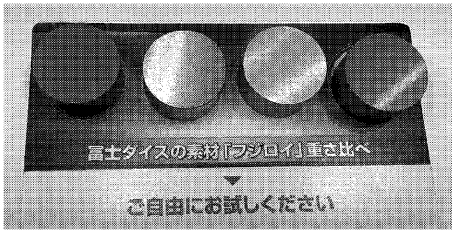
取材先：富士ダイス

神奈川工業高等学校（全日制）
機械科 1年 のたまそさん

超硬合金の工具・金型製造

富士ダイスは1949年創業の「超硬耐摩耗工具」の分野で国内トップのシェアを誇るメーカーです。超硬合金を材料に使用し、摩耗しにくい工具や金型の製造を手がけています。今回は富士ダイスさんに超硬合金を使った製品について伺いました。

超硬合金とは、タングステンなど9種類の金属の炭化物を、鉄系金属で結合した合金のことを言います。レアメタルと呼ばれるタングステンカーバイドとコバルトの粉末を混ぜ合わせ約1400℃の高温で焼結することにより、ダイヤモンドに次ぐ硬さを持ちます。このような高い硬度により、超硬合金は耐摩耗性を要求される加工工具やプレス金型に使用されます。富士ダイスさんはこの超硬合金や、超硬合金より熱に強いヘビーアロイという金属等を使って工具や金型を製造しています。



一番左が超硬合金で、左から3番目がヘビーアロイ。これらの材料を割れやすさや耐熱温度によって使い分けています

取材先：吉野機械製作所

木更津工業高等専門学校
機械工学科 3年 めんさん

吉野機械製作所の魅力

板金加工の分野で高い技術力を誇る吉野機械製作所は、特に曲げ加工に強みを持つ企業だ。住宅設備、特にユニットバスの壁や天井のパネルの多くが同社の機械により加工されたものであり、住宅設備業界において欠かせない存在となっている。複雑な曲げ加工を可能にするプレスブレーキと、大型板金に対応するパネルベンダーを融合させたハイブリッド機の開発に加え、従来の油圧式機械の電力消費を4分の1に抑える特殊倍力機構を開発するなど、環境負荷の低減にも積極的だ。

さらに、ロボットアームと専用アプリケーションによる作業の自動化・簡易化を推進しつつ、人が作業する場面でも安全性と効率性に配慮した設計を行っている。技術革新と人への思いやりを両立する姿勢が、同社の信頼を支えている。



完全自動曲げシステム「YSP-Rシリーズ」外観

取材先：しのはらプレスサービス

磯子工業高等学校 機械科 2年
永島歩夢さん

機械から人を守る機械

しのはらプレスサービスでは主にプレス機のメンテナンスやプレス機から人を守るための安全装置の設計、取り付けなどを行っています。そんなしのはらプレスサービスの強みは、設計から部品の作成、組み立て、設置、メンテナンスまで一貫して行っているため、機械のトラブルに迅速に対応できることです。機械に複数の会社関わっていると、トラブルの原因を突き止めるのに他社と確認を行わなければならないので時間がかかってしま



プレス機の周りに安全装置がついている

いますが、設計からメンテナンスまで行くと、社内でのようなトラブルが起きたかをすぐに共有できるのでそこが強みだと思います。

取材先：トミタ

磯子工業高等学校 機械科 1年
河村勝さん

海外企業との交流が魅力

僕が取材した会社はトミタです。トミタはドイツから装置を輸入するので、日本国内だけでなく海外の人と交流でき、海外とつながってビジネスをしているのが魅力だと思いました。僕は磯子工業高校に入るまでMF-TOKYOのことは知りませんでした。会場に入ったときに知らない用語ばかりで全然分からなかったけれど、トミタに取材したらその用語が分かりました。日本の会社でも海外と関係



をもっているのを初めて知りました。英語を学ぶ理由が分かりました。

洗浄ノズル。ノズルは先を細くして中央を膨らませることで広く洗うことができる

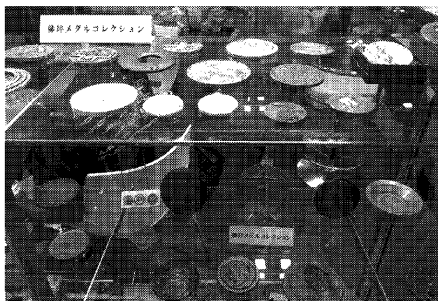
神奈川工業高等学校（全日制）
機械科 1年 工業106さん

工業用プレス機の進化

今回、開催されたMF-TOKYOでは、数多くの企業の展示を見させていただくことができ、工業にあまり知識のない自分でもとても興奮するようなイベントだった。今回、取材させていただいた企業は榎本機工さんだ。榎本機工さんは300トン級の工業用プレス機の展示を行っていた。このプレス機の特徴は、プレスする方向だ。他社のプレス機が上から下に、つまり重力がかかる向きにプレスしていたのに対し、榎本機工さんの方は下から上にプレスする方法である。この方法にすることで、加工する素材を置く台は下になるわけだから、入れやすくなる。しかも、長い棒状の素材を斜めから入れて、元に戻すと普通のプレス機に入れられる素材よりも長いものを加工できる。ここがこのプレス機の面白いところだなと感じた。

このプレス機は自動車のシャフトやその他の部品を製造することができ、輸出する量も国内より海外が多いそうだ。特に自動車を大量生産しているインドからの発注はすさまじいようだ。日本国内にもニーズはある。ほかの工場と比べると小さいような場所でも、わざわざスペースを作り、天井に穴をあけてそこから搬入するくらいこのプレス機は人気なようだ。

そんな榎本機工さんの創業は1915年「大正4年」で、今年で110年の老舗だ。プレス機の老舗であるから、日本のみならず海外からも信頼が厚いのかもしない。



展示されていたメダル。旋盤を使うと時間がかかるような金属加工も、プレス機を使うことで量産しやすくなる

取材先：榎本機工

磯子工業高等学校 機械科 3年
宗政磨陽さん

製造現場の未来

オーセンテックは「製造現場の手作業を無くす!」を目標に、今までに無かった「作業を自動で行ってくれる機械」を作っている会社である。加工品からバリを取る機械、部品の油分を水道水のみで落とす洗浄機、板の曲がりやを真っ直ぐにする機械（レベラー）などさまざま。どの機械も「老若男女、誰もが同じ物を作れるようにする」ための工夫が多く見られた。ちなみにオーセンテックが作る機械には明るい緑が使われている。オリーブと同じ色を使って従来の工場の暗いイメージを変えるためだと聞いた。製造現場の未来は、パートの人や高年の方など誰でも作業ができるようになるのかもしれない。



加工品を洗浄する機械。洗浄液不要で水道水のみで油分を落とす

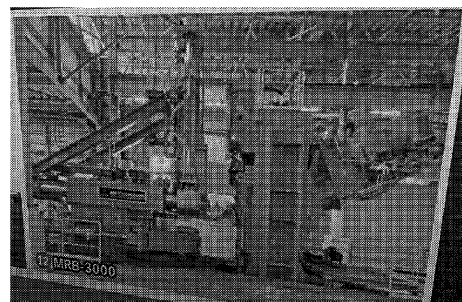
取材先：オーセンテック

磯子工業高等学校 機械科 2年 大越悠翔さん

なぜ？100年以上続く企業の強みとは

三菱長崎機工という会社は、1919年に三菱造船長崎製鋼所として発足し、1975年に現在の三菱長崎機工として独立した歴史ある会社です。企業からの依頼に沿って自由鍛造プレスやリングローリングミル、マニプレータなどの産業設備を製造し、貢献しています。これらの機械は設計、組み立て、製造、品質保証を一貫して行っています。品質保証に関しては従業員一人ひとりが気づいたことを月一回発表する決まりがあるそうです。また、リングローリングミルという機械はこの会社にはかない強みで、金属をリング状に圧延加工することができます。大型リングローリングミルは高剛性で安定した作業を実現しており、大型フランジや旋回ベアリング、ギア材などに使われ、私たちの日常を支えています。

取材先：三菱長崎機工



同社のリングローリングミル

MF-TOKYO 2025への沢山のご来場をありがとうございました！

次回は2027年開催予定です。

展示会ダイジェスト動画
出展者インタビュー公開中！



学生記者企画に関するお問い合わせ

日刊工業新聞社 業務局総合企画部
k-info@media.nikkan.co.jp

展示会に関するお問い合わせ

MF-TOKYO運営事務局（日刊工業新聞社内 第一イベント事業部内）
mftokyo@nikkan.tech